

## ふじのくに芸術祭2025高校生短歌・俳句・川柳コンクール【短歌の部】

	賞	作 品	学校名	学年	姓
1	最優秀賞	薪くべてはぜる音またひとつ増え僕らの時間燃えて深まる	静岡北高等学校	2	石田
2	優秀賞	「やらなさや」とつぶやくだけで今日終わり応用問題まだ先のこと	県立榛原高等学校	3	水野
3		非常口横目に走る体育館ピクトグラムと息を合わせる	桐陽高等学校	1	岡村
4	優良賞	雷鳴が不安な僕らに呼びかける雲の上はいつも晴れたと	県立島田高等学校	1	稲垣
5		汗だくでポケット探るも小銭なしあの自販機は知らん顔して	県立駿河総合高等学校	3	高林
6		姿など変わっていくけど私たち氷と水は中身は同じ	県立浜松工業高等学校	3	岩田
7	入 選	何度でも失敗の紙重ねつつ舞うように描く言葉の力	県立榛原高等学校	3	磯部
8		雲間から祖父母の家を探してる下に広がる福岡の街	県立榛原高等学校	1	加来
9		窓越しのうろこのようにひかる海静かにゆられぬ目こする	県立榛原高等学校	1	糸川
10		夏祭り空いっぱい花火の音君は呼ぶ声に気づきもしない	県立榛原高等学校	1	四ノ宮
11		風に揺れ背比べする向日葵は倒れても尚空を仰いだ	県立榛原高等学校	1	島尻
12		原爆忌験をとじれば悲しみが験をひらくと晴れわたる空	県立榛原高等学校	1	小菅
13		しゃぼんだま風にのって届けよう青の世界から飛び出すメロディ	県立榛原高等学校	1	田平
14		おしゃべりのタネばかりが積もっていく乾くばかりで咲かぬ土曜日	静岡サレジオ高等学校	2	鈴木
15		手首から触れた一瞬消えていく水素結合夏の残り香	県立浜松工業高等学校	3	大城
16		笑い声同時にひびく休み時間波があうってこれが共鳴	県立浜松工業高等学校	3	松本
17		あと少し届きそうで届かない君と私の漸近線	県立浜松工業高等学校	3	大村
18		見えない人の心もPHも酸か塩基かあなたはどれだ	県立浜松工業高等学校	3	松島
19		この世界君が自転でまわってる僕が公転君をみまもる	県立浜松工業高等学校	3	山口
20		昼休み蓋を開けると白米に応援聞こえる祖母の梅干し	県立浜名高等学校	2	折田
21		汗だくで一緒にこいだ帰り道遠回りして夏を伸ばした	県立浜名高等学校	2	松下
22		静寂に笛の音響くスタート台僕らの夏は水の向こうで	県立浜名高等学校	2	荒川
23		5時間目睡魔と戦う仲間たちペンを刀にノートに盾に	御殿場西高等学校	3	川口
24		プリントに汗で滲んだ濁る文字消そうとすると紙が破れる	県立天竜高等学校春野校舎	3	松島
25		おい待てよ眉間にしわを寄せないで奏でてみよう心のおんぶ	県立裾野高等学校	1	若命
26		「気になってる」その一言にときめいて「この問題が」膝から崩れた	県立裾野高等学校	1	杉本
27		放課後の会話が弾んだ製図室ペンは動くぞ夜遅くまで	県立島田工業高等学校	3	浅井
28		帰り道仲間と食べたカップ麺どのラーメンよりおいしく感じる	県立島田工業高等学校	3	青木
29		「好きにしろ」言われ私は好きにしたなのになぜか怒られる日々	県立湖西高等学校	2	天野
30		炎天下薬剤散布をする僕ら羽着を着ると中はサウナだ	県立静岡農業高等学校	3	間宮
31		幕上がり緊張はしる初舞台震えながらも切り出す台詞	誠恵高等学校	1	小黒
32		顔上げてこの世の広さを見る僕のちっぽけな悩み晴らしてくれぬか	浜松市立高等学校	2	富田
33		キャンバスに思いを乗せて無我夢中筆が私を運んでくれる	県立島田高等学校	2	増田
34		ラムネ瓶最後の泡がのぼるとき言いかけたことまた飲み込んだ	県立島田高等学校	1	山崎
35		旧友が見違えるほどまぶしくて声かけられず去る夏祭り	加藤学園高等学校	2	松森
36		入道雲遠く遠くへ消えてゆき置いてけぼりの八月の午後	加藤学園高等学校	2	辻野
37		あの日見た漫画の続き買いたいのが近場の本屋店を畳んだ	加藤学園高等学校	1	土屋
38		財布見て昨日の自分を責めながらポイントだけが元気にたまる	加藤学園高等学校	1	姫野
39		ぼたぼたと汗か涙かわからない揺れるネットが負けたと告げる	加藤学園高等学校	1	太田
40		ぶどう棚一つの粒に光りさす道しるべかと我が迷い消す	静岡北高等学校	2	増田
41		消しゴムのかす積もりゆく机には夢の重さが静かに眠る	静岡北高等学校	3	加藤
42		純白な勝負着染める砂埃加速していく今年の盛夏	桐陽高等学校	1	鎌野
43		制服を脱いだその日が夏になるスタートライン今立つところ	県立浜松湖北高等学校	1	奥山
44		いつもなら手の届かないあの子にも今夜は勝てる線香花火	県立稲取高等学校	2	八代
45		ひまわりのまぶしき群れに立ち尽くす空はどこまで青く広がる	常葉大附属橘高等学校	2	庄子
46		車夫の声歴史を運び風となり笑いとともて京を駆けぬく	常葉大附属橘高等学校	2	熊谷
47		バツ印溢れるノートに手を伸ばす今からこれは丸へと変わる	常葉大附属橘高等学校	1	藤田
48		夏の海力メラをむけて撮る景色胸の思いをあとに残すの	県立磐田南高等学校 定時制	3	カド
49		おじいちゃん手術を終えてリハビリだ大丈夫だよ私がいるね	県立富士特別支援高等学校	1	岩永
50		空見上げ輝く花が咲き始め散った時には祭り終わるよ	県立沼津特別支援学校愛鷹分校	2	杉澤